

令和7年6月25日
経済産業部都市農業課

世田谷産農産物（せたがやそだち）の余剰品を活用した加工品化について

1 主旨

世田谷産農産物「せたがやそだち」は、毎年、各生産者により少量多品目で計画的に収穫されているが、野菜の種類と時期により、一時的に生産量が地域での消費を上回り余剰が生じる課題がある。このため、区では、せたがやそだちのさらなる活用とエシカル消費推進のため、JA東京中央、東京農業大学、庁内関係所管と連携し、余剰トマトを活用した加工品の開発、さらには学校給食での活用を目指す取組みを開始するので報告する。

2 事業概要

- (1) 6月下旬から7月下旬、余剰となったトマトについて、本来であれば各生産者が引き取るところ、JA東京中央が購入。週あたり50キロ以上を6回程度、※計300キロ以上（予定）の集荷を目途とし、8月下旬頃、加工品化を行う。
※300キロは、大玉トマト（200g以上）の約1500個分
- (2) 加工品化された製品（1年間冷凍保存可能）は、せたがやそだちの一部品目と同様、区内の学校給食での活用を目指し、9月以降、モデル校の募集を行う。
- (3) 12月から令和8年2月までモデル校での給食における活用後、本件取組みの調査・分析等にかかるアンケート調査を行う。
- (4) 本加工品については、JA東京中央により一部地域で一般販売を行うなど試験的な取組みを行い、せたがやそだちの流通拡大に取り組む。

3 経費

事業委託料 2, 195千円

- | | |
|-----------------------------|----------|
| (1) 余剰トマト集荷、保管、運搬、加工品化試作等委託 | 1, 260千円 |
| (2) 本件取組みに関する専門的助言、調査・分析等委託 | 935千円 |

4 今後のスケジュール（予定）

令和7年6月下旬～7月下旬	余剰トマトの集荷（2か所のファーマーズマーケット）
9月	余剰トマトの加工品化 加工品の給食活用モデル校募集
12月～令和8年2月	学校給食での活用、アンケート収集・分析

5 その他

令和8年度以降は、余剰トマトのさらなる集荷による生産者支援と学校給食導入校の拡大を目指す。また、余剰加工品は市販品と比べて販売価格が高くなるため、学校給食での余剰野菜の加工品活用に向け、せたがやそだち加工品活用およびエシカル消費推進を目的とした補助金等のスキームを検討する。



せたがやそだち(世田谷産農産物)は、人・社会・地域・環境の未来を想う、エシカルなつながり、せたがや まごころリレー(せたまご)に取り組んでいます。